

受賞者氏名	小堀哲夫	
所属	小堀哲夫建築設計事務所	
受賞年月日	2020年12月	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会	
受賞名	第15回日本ファシリティマネジメント大賞(JFMA賞)特別賞	
受賞(研究)内容詳細	梅光学院大学「The Leaning Station CROSSLIGHT」 http://www.jfma.or.jp/award/ ※作品詳細は資料を添付します	

受賞者氏名	小堀哲夫	
所属	小堀哲夫建築設計事務所	
受賞年月日	2020年12月	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	一般社団法人 日本建設業連合会	
受賞名	第61回 BCS(日本建設業連合会)賞	
受賞(研究)内容詳細	NICCA INNOVATION CENTER https://www.nikkenren.com/kenchiku/bcs/detail.html?ci=977 ※作品詳細は資料を添付します	

受賞者氏名	小堀哲夫	
所属	小堀哲夫建築設計事務所	
受賞年月日	2020年10月	
国内・国外	国外	
授与機関等名称	The German Design Council(ドイツデザイン評議会)	
受賞名	German Design Award, 2021 winners	
受賞(研究)内容詳細	梅光学院大学「The Leaning Station CROSSLIGHT」 https://www.german-design-award.com/en/the-winners/gallery/detail/34224-baiko-gakuin-university-the-learning-station-crosslight.html ※作品詳細は資料を添付します	

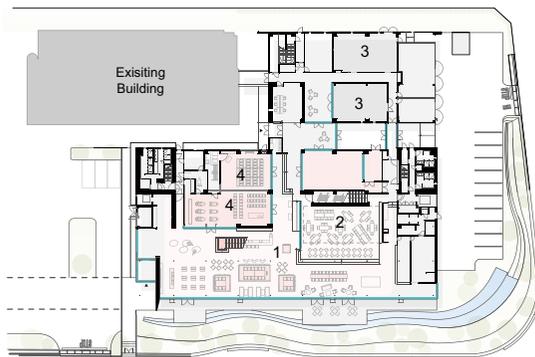
受賞者氏名	小堀哲夫
所属	小堀哲夫建築設計事務所
受賞年月日	2020年5月
国内・国外	国外
授与機関等名称	メルシーメディア社
受賞名	SKY DESIGN AWARDS, 2020 Shortlist
受賞(研究)内容詳細	梅光学院大学「The Leaning Station CROSSLGHT」 https://www.skydesignawards.com/sda-2020-architecture-shortlisted/baiko-gakuin-university ※作品詳細は資料を添付します



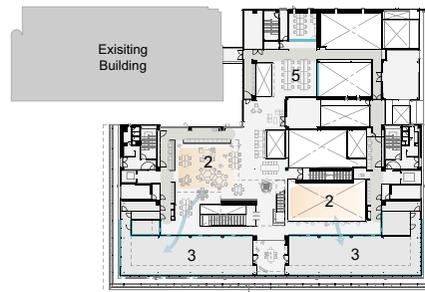
NICCA INNOVATION CENTER

| 受賞歴 | 第61回BCS（日本建設業連合会）賞
 | 所在地 | 福井県福井市
 | 竣工 | 2017年

福井の織物産業を象徴する「羽二重織り」をイメージしたファサード

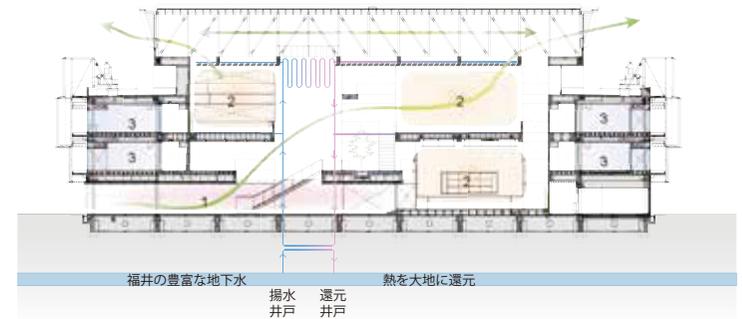


1F 平面図 S : 1/1500



2F

- 1 Public Common
- 2 Common
- 3 Laboratory
- 4 Lecture Room
- 5 Office



断面図 S : 1/1000

我々は、研究者たちを「実験」という個人的な活動から解放し、他者との交流やダイレクトな感動を身体的レベルで共有し、実践共同体の場として本質的にオープンであることが必要だと感じた。そこで、実験室をすべてガラス張りにし、中心に「コモン」を配置した。ガラス張りの実験室は視覚的、距離的にも近くシームレスに繋がり、一体的な研究コミュニティを形成しながらスピーディーな交流を生む。我々はこの交流のイメージを共同体に他者が参加できる「バザール」と呼んだ。「コモン」は、「人、自然環境、活動、道具」が常に変化し続ける空間であり、2・3階の「コモン」は将来「バザール 2.0」「バザール 3.0」となり、より発展的に他者へ開いていく場になるよう計画している。



右 / 地下水を利用して太陽の明るさのみを採り入れ、熱を取り除く TABS 空調配管を打ち込んだ RC スリットスラブ
 左 / ガラス張りの実験室に囲まれた研究者の集まる「コモン」

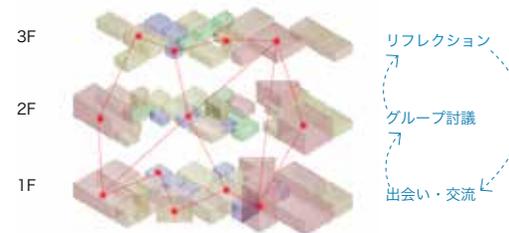




梅光学院大学 「The Learning Station CROSSLIGHT」

- | 受賞歴 | 第15回日本ファシリティマネジメント大賞 (JFMA賞) 特別賞
German Design Award, 2021 winners
SKY DESIGN AWARDS, 2020 Shortlist
- | 所在地 | 山口県下関市
- | 竣工 | 2019年

「教職協働」で学生を育てるという考えのもと、1階にすべての教職員を集約。3層の立体空間は、異なる4つの対人距離を空間モジュールとすることで、大小様々な間仕切りのないセミオープンな空間が斜めに連なる。廊下と教室の概念をなくすことで、あらゆるところが学びの場となるよう計画した。自由に可動できる家具やグラデーションのある環境は、学生一人ひとりの個性に寄り添うように、多種多様な学びのシーンを生み出している。



PERSONAL SPACE (R0.45m) SOCIAL SPACE (R1.2m) PUBLIC SPACE (R3.6m) PUBLIC SPACE (R7.6m)

上/三次元網目構造空間と活動のリンク。集中できるパーソナルスペース (対人距離~1.2m)、親密な議論ができるソーシャルスペース (1.2~3.5m)、公開講義も可能なパブリックスペース (3.5~7m) など、大小さまざまな空間が立体的に連なる。
※エドワード・T・ホルの論考参照



上左/大庇が都市に開き、人々を迎える。写真：新建築写真部
上右/壁にプロジェクターを映写し、授業を行える大階段
下右/上下階の活動が立体的に見え隠れする
下左/吹抜に面したパーソナル (集中) スペース
写真3点: Nacása & Partners